

- (1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

関西方面で将来、管理栄養士の資格をとることができ、自分のやりたい事ができる私大を探していたところ、同志社女子大学を見つけました。詳しく調べると、臨地実習が豊富で国家試験対策も充実しているからこの大学を志望校にしようと思いました。

- (2) 推薦入試対策としての受験勉強の進め方について。

〔1学期〕

1学期は、同志社女子大を志望校にしておらず、国立大学を目指していたので、参考にならないかもしれませんが、平日4時間、休日8時間を怠頭に置いて、数学と英語を中心に受験勉強していました。授業もしっかり聞いて、定期テストも劣らないように、一生懸命勉強していました。

〔夏休み〕

夏休みは、センター試験の勉強に賭けるべきと言われていたのだから、センター試験の対策をしていました。この時は、毎日10時間勉強を目標にしていました。夏休みは、勉強する時間があり、1日全科目勉強するぞ!!と決め英語の長文とリスニングは最低でも2題解くぞ!!と自分なりの細かい目標を立て勉強していました。英語は1日でも触れないと、一気に落ちる科目なので重点的に頑張りました。

〔2学期～入試直前〕

2学期に入ってから、同志社女子大学の推薦を受けると決めたので、人より遅いスタートでした。残り2か月しかなかったのがかなり焦っていました。最初に過去問と解いたとき、生物が2割程度、英語が6割程度でした。生物が低かったのだから、どうしようと思っていたのですが、生物は1次と暗記科目で200点と配点も大きかったから、生物を極めたら合格できる。と信じて生物だけずっと勉強していました。過去問とよく似た問題が生物の問題集に載っていたので問題集を、2周も3周もしていました。生物の問題集と、ひたすらにやたら後に過去問を5年分解きました。

- (3) この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

私は、テレビをあまり見なくて、スマートフォンを沢山いじります。だから、家では絶対に勉強できませんでした。1番勉強のできる環境は、学校だと思っています。私の学校は、スマートフォンを使用することが禁じられていたのだから、必然的に、スマートフォンを使用できません。それに外でスマートフォンをいじると、ずか数の少ない私はすぐ速度制限になるので、それが嫌でスマートフォンは、いじれませんでした。その代わりに、目標勉強時間達成したら、たくさん家でYouTube見てやる!!など、終わったあとの娯楽を楽しみに頑張っていたので、精神的につらくなることもなく、スランプもあまりなく乗り越えてきました。

- (4) 受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

受験は、つらくて逃げたくなります。でも無理せずに頑張ってください。

過去問や問題集にひたすらにとり組めば、不安もなくなり、学力もついてくると思っています。とにかく、最後まで諦めないことが重要だと思います。